第9回門真市学校適正配置審議会（第3次）議事録

1 開催日時 平成20年10月2日（木） 午後1時30分～午後3時40分

2 場 所 門真市役所第2別館 第1会議室

3 出席委員 16名／18名中

4 議事概要

(1) 委員長あいさつ後、議題「第8回審議会議事録（案）の承認について」が行われた。

(2) 議題「第五中学校校区の小学校再編について」に関し、第五中学校校区の小学校の在り方の考え方、第五中学校校区の再編についてのまとめ、及び新中学校（第一・第六統合）校区内の小学校再編についての考え方の説明を事務局が行い、このことに関して質疑応答及び審議が行われた。

(3) 議題「第二中学校校区内の小学校再編について」に関わる資料34「第二中学校校区内の小学校再編について」ならびに資料35「校舎等施設の状況」の説明を事務局が行い、質疑応答が行われた。

※ 討議の概要は以下のとおり

委員長 会議の公開、非公開ですが、本日は3つの議案が用意されておりますが、具体の学校名や地域名などが出てくるのが当然予想されます。当該学校や地域関係者にご心配や混乱を招くことがないよう、また、委員の皆さんが外的圧力を受けないで、自由な立場からご発言いただけるよう、一括して非公開の取り扱いということにさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員 (異議なし)

委員長 ありがとうございます。それでは本日の審議を非公開とさせていただきます。

議題「第8回審議会議事録（案）の承認について」

資料33 第8回門真市学校適正配置審議会（第3次）議事録（案）

委員長 第8回の審議会議事録（案）の承認について、発言の趣旨等に相違ございませんか。

委員 2ページの事務局説明の最初の部分で阪神・淡路大震災級の「級」が「給」になっています。

委員長 事務局訂正をお願いします。他にございませんか。

委員 (異議なし)

委員長 それでは、第8回審議会議事録（案）は承認されたものとします。

議題「第五中学校校区の小学校再編について」

委員長 第五中学校校区内における小学校の再編についてということで、前々回、前回と、大変熱心に議論いただきました。前回は大きな方向付けとして、私の方でとりまとめをさせていただきましたが、ご承認ということには、議論の余地があるのではないかとということで、今回も継続して議論をいただくことになっております。

事務局提案のA案とする方向については、事務局に対する留保条件として、一つは、現在在籍している児童、卒業生、及び保護者や地域住民の皆さん、そういった当事者の思いに応える努力をしていただくということ、もう一つは、A案、B案の違いに基づいてA案の方がいいという根拠を明確にすることとし、事務局から改めて考え方をまとめて示すこととなっております。本日はそのことについて事務局より説明してもらいます。また統合新中学校区についても同様に事務局から説明をしてもらいます。

事務局 「第五中学校校区の小学校の在り方の考え方」についてでございます。考え方を再度整理しましたのでご説明いたします。

審議会の議論の中で、本市で伝統ある小学校をなくすのか、卒業生が1万人程度いる小学校がなくなるとは思わなかった、伝統校を分割するのは地元の理解を得にくいのではなど、委員の皆様方の伝統校に思いを寄せる熱いメッセージ、いわゆる伝統の重みを感じた時、委員会事務局といたしましても再度熟慮しなければならないという考えに至りました。そこで、この校区の再編にあたっては、教育委員会として新しい考え方を整理いたしましたので、ご説明いたします。

本市が推進する小中一貫教育の理念を踏まえて「一中学校区二小学校」という基本的な考え方に基づき、第五中学校校区にある四宮小学校、北巢本小学校、東小学校の三つの小学校を二つの小学校に再編する。三つの小学校がそれぞれ積み重ねてきた教育の歴史と伝統を創設する二つの小学校の教育に継承発展させる。新たな二つの小学校は、通学区域についてはA案とし、校地・校舎については、現在の東小学校及び北巢本小学校を活用する。こういう提案でございます。

新たに付け加えましたのは、その後でございます。「基礎的な学力、能力を身につけ、豊かな心情と強い体力を持ち、人間尊重と自主的精神を備えた、平和で明るい民主社会の形成者としての素地を育成する」を学校目標に掲げた四宮小学校の教育は、100年を超える伝統の中で築き上げられてきたものです。こうした貴重な財産を受け継ぎ何らかの形で残していく方向で検討しなければならないと考えています。また、四宮小学校の校地を市の公共施設建設用地として活用するよう検討していきます。北巢本小学校を使用する新たな小学校については、「人権尊重の精神を基盤として、自主的で実践的な態度を身につけ、人間性豊かな児童の育成をめざす」を学校目標に掲げ進めてきた北巢本小学校の教育を受け継ぎ、一層発展するよう努めてまいります。その際、校舎・体育館は耐震補強にともなって、内部改修などを通じてより快適な学校生活を送れるよう教育環境の充実に努めてまいります。東小学校を使用する新たな小学校については、「人権尊重の精神を全ての教育活動の基本に捉え、心身ともに健全で、創造性に富む人間性豊かな児童の育成をめざす」を学校目標に掲げ進めてきた東小学校の教育を受け継ぎ、発展するよう努めてまいります。その際、耐震補強の必要はないが普通教室を増築するとともに内部改修など学習環境の改善に努めていきます。加えて、創設する二つの小学校の教室については、子どもたちが知・徳・体のバランスのある教育を進めるための学習機器等を整備する等、子どもの学習環境を充実する

方向で検討しております。以上の通り小学校再編の具体化にあたっては、四宮小学校をはじめ三つの小学校がそれぞれ地域とともに築き上げてきた教育の歴史と伝統や地域の特色を生かし、次の新たに創設される学校にしっかりと継承され発展していくための環境づくりに努め、地域に根ざした学校として出発できるよう努めてまいります。その際、地元の児童、保護者、地域の皆さんの要望、意見、提言などを可能な限り取り入れて学校創設に活かしていきたいと考えています。

このように、前回よりも各学校の教育目標等を入れさせていただきまして、歴史の重み、また地域や保護者の考え方をできる限り次の学校へ活かしていけるように考えてまいりたいと、このような考えでおります。これが小学校の在り方の考え方でございます。

続きまして、なぜA案なのかという考え方でございます。

A案は、第二京阪道路を境に上部部分を「北校区」下部部分を「南校区」としながら、東側の地域においては、市道岸和田北15号線で切った案でございます。

第二京阪道路等大きな幹線道路は、通学における安全面で一定の確保が充分なされているとしても、地域を分断する大きな要因であることに違いはなく、それによる住民の生活や地域活動の影響はもちろん、心理的な影響も相当あると考えております。過去には、中央環状線の設置により住民生活や地域活動に影響が出た経緯がございます。従って校区の編成にあたっては大きな道路や河川を境界とすることを基本に考えたいと、このように考えております。これは今までの校区編成でも考えていたことでございます。従いまして、第五中学校校区のほぼ真ん中を第二京阪道路が横切っており、道路の北部と南部で将来的に影響があるものと考えまして、第二京阪道路を校区の境にした次第でございます。B案では第二京阪道路を境とせず、八尾枚方線で東と西に分けた部分でございます。B案の場合、現在四宮小学校の児童の内、上馬伏地区、日新地区の児童が第二京阪道路及び国道163号線を越えて通学するという状況が生まれますので、これには安全面や実生活に心理的な影響が出る恐れがあると考えます。仮に同地区の子どもたちが第二京阪道路と163号線を越えて北巢本小学校へ通う場合、その人数は現在で334名となり、子どもたちに及ぼす影響が大きいのではないかと考え、A案を選択いたしました。

続いて、伝統ある学校への思いを受け止めるという考え方でございます。

学校の校地・校舎として活用しなくなる四宮小学校の児童及び関係者の思いを受け止め、今後の新たに設置する小学校に引き継いでいくための方策ということでございます。まず、校名につきまして、公募することにより、関係校区だけでなく市民にも広く意見を募り決定するというような方向でもってまいりたいと、このような考えでおります。次に、先ほど述べさせていただきました現行の3つの小学校の教育目標及び歴史や伝統を再編する新たな小学校に、しっかりと受け継ぎます。具体的には、児童、保護者、地域住民などの連携のもとに、地域で開催されていた様々な催しや行事、例えば校区体育祭、校区の門真まつり、子ども会行事、納涼盆踊りなどの伝統をしっかりと受け継ぎ、学校と一緒に作り上げてきた思いを引き継ぐことにより、地域に根ざした、地域から信頼される学校になるように努めてまいりたいと、考えております。

以上、第五中学校校区の小学校の再編につきまして、このように教育委員会は考えております。

委員長

A案を採用するという事務局の考え方について、いくつかの観点で整理していただき、さらに四宮小学校の思いに込める内容ということで整理していただきました。ここまでについて、ご意見をお願いしたいと思いますが、前回、A案の方向でという私からの方向付けをさせていただいた上での議論ということで、ご了解をお願いします。

委員 説明では、北巢本小学校の教育を受け継いで一層発展するように努めてまいります、となっていました。この説明どおりでは、北巢本小学校の学校目標を進めていく、と受け取れます。しかし、これは非常に重要なところであり、こういう決めつけではなく、是非、四宮小学校の学校目標についても十分取り入れる形で新しい学校を創っていただきたい。四宮小学校には「強く、正しく、朗らかに」という非常に簡単でかつ分かりやすい児童の心構えがあります。これは100年の伝統で、OBの皆さん方が分かりやすい目標がこの中にしみ込んでいると思いますので、ぜひ新しい学校にも、教育目標については四宮あるいは北巢本を合わせた形で新しく設定していただきたいと思います。

委員 一つの中学校区に二つの小学校とする、これが基本的な理論ですが、現在のスムーズに運営されている三校が二校になるというのが…。いずれは二校になるであろうとは思いますが、ある程度のところまでこの三校で継続されてはどうかと考えます。極端な言い方をすれば、四宮を残して北巢本を廃校するという考え方です。これは委員長に申し上げたいと思います。

教育委員会としては第二京阪を中心に考えていますが、現在の地形から見ると四宮小学校は中心に位置しています。通学距離においても児童が苦痛を覚えることはないだろうというのが一点です。それに伴って、保護者その他においても理解を示す可能性があるだろうという考えです。従って、四宮小学校として一から新設でやりかえてしまうのがいいかなと私は思っております。それによって近代的な小学校ができあがり、そこで豊かな楽しい学校生活を送れるのではなからうかという考え方をしております。

古いことを申し上げて恐縮ですが、門真市になる前、門真町になる前は四宮村、大和田村、二島村、それから門真町の4つがあり、この4つが昭和31年に合併されました。現在、大和田小も二島小も門真小も残っています。伝統校だと思います。四宮小だけにこういう話が出ていますが、明治7年に四宮村にできた学校が消えていくということについては我々には抵抗があります。門真市も教育関係にメスを入れておられ、いずれ校舎自体もひとつひとつ新しくなっていくのですから、その第一号として四宮をターゲットにして、この際新しく学校を創ってもらったらどうかという考え方です。

委員 小学校の位置というのは、今〇〇委員が言われたように、明治7年から四宮のこの場所にあるのですか。

委員 今データが手元にありませんが、少し動いています。最初岸和田にあって、それこそ寺子屋です。

事務局 事務局で分かっている範囲ですが、元は岸和田地区にあったと聞いております。それが何度かの変遷によりまして、今の四宮小学校の位置に移ったのですが、30年ほど前にもグラウンドの位置も八尾枚方線沿いにあったものが変わっているとか、そのような変遷があるようです。現在の位置に落ち着いたのは、昭和45年頃と聞いております。

委員 名前か場所かということでしたら、場所はかわるのでしたら時代や環境の変化に応じてという発想でいいかなと思います。過去には、門真町とあとは全部村だったものが合併して門真市にな

ったという経緯があるので、二島の名前が残っているので、四宮の名前については、また別の問題として検討していただけたらどうかと思います。これはみなさん思い入れがあって岸和田から上馬伏に移ったときも名前を継続されていると思いますから。学校の場所をず動かさないというのは永久的には無理だと思いますので、場所という問題を重要視することはどうかと思います。

委員長 創設以来、四宮小学校という名前は一貫していますが、立地している校地・校舎についてはその時々で何度か変遷しているということです。

委員 四宮小学校は面積も北巢本小学校より大きいです。それに、北巢本小学校は校舎自体が四宮小学校に比べて、前回の審議会でも発言がありましたように問題があるということを知っています。当面のことを考えればそういうこともあります。将来発生する問題も出てくるわけですから、審議会として四宮小学校を挙げていただくのなら、そこで新しいもの（校舎）でされたいかがかかと思っています。お金の問題につきましては次の問題でありますから、門真市も先においては（財政状況は）かなり改善されてくると思います。当面は、現状の三校がベターではないかなと思います。

委員 なぜA案なのかについての事務局の説明で、B案では、現在四宮小学校の児童の内、上馬伏、日新地区の児童が第京阪道路及び国道163号線を越えて通学することになり、安全面や実生活に心理的影響がでる恐れがあると考えられるとありますが、少し苦し紛れかなという気がします。そういうふうにしてA案を見たら、北岸和田とか巢本町の子どもたちも同じように第二京阪を渡って163号線も渡って北巢本の小学校に行くことになるので、その子どもたちのことを考えなくてはいいいのかと。こういう説明では少し説得力に欠けるように思います。B案をとった方が当然、より多くの児童が第二京阪と163号線を渡って北巢本小学校に通うことになり、いろいろな問題や苦情が多くなると思います。だからといって最小限に食い止めたからという言い方で説明をすると、現に渡っていく人たちから見ると、自分たちは考えられていないのかなという思いがでるのではないのでしょうか。

事務局 ご指摘のとおり、二つの道路を渡るという子どもたちが実際出てきます。ただ、今まで四宮小学校の北側の子どもたちが来る場合はすべて、前にご説明申し上げましたように、第二京阪道路ができる以前は、163号線を二階堂の横断歩道一つで渡っておりました。また、北巢本地区の子どもたちは、もともと163号線の横断歩道を渡っていたという経験則のもとに、このような表現をさせていただきました。歩道橋を渡っていた子どもたちと横断歩道を渡っていた子どもたちで比較させていただきますと、信号の横断歩道を渡っているという経験がありますので、北から南を今度は南から北へとすることは可能であるかな、という思いでの表現です。

委員長 補強意見だと受け止めさせていただいております。なぜA案なのかということについては、ていねいに現状を伝えていただいて、書かれていない当該の人にとれば、それは少数だから無視されていると受け止められる、そういう誤解の生じないようなていねいな書きぶりが必要なのではないのかという提案だと思います。その点を配慮した表現をお願いします。

委員 なぜA案なのかの説明について、第二京阪道路があるからこうだということを公式に表明しますと、例えば第二京阪国道をつくっている側は非常に抵抗を感じると思うのです。ですから、これはかなり丁寧に表現する必要があると思います。市の方針として大きな道路や河川を境界とすることを基本に考えてきたという形で済ませば、そういう行政上の説明の矛盾が消えると思うのですがいかがでしょうか。第二京阪国道に関わる人は、地域活動等に対して一切悪影響は及ぼしませんということで、地域住民に従来から説明しているわけです。もし何か必要だったらその要望を提出してくださいと言ってきているわけです。ですから、第二京阪国道に責任といいますか考え方をかぶせて、校区をこうするという書き方はその辺と矛盾すると思うのです。門真市の方針として大きな道路や河川を境界とすることを基本に考えてきたし今後もそうするつもりだということはどうでしょうか。

委員長 二国を悪玉にしてこれがきたからこうなったという論理の組み立てにとられると、そういう受け止めがなされるようであれば別の混乱が生じますよというご指摘だと思います。しかしながら、二国ができることで一定の影響が生じることは疑いのないことですから、二国が通ることでも一つの要素として考える必要があるという記述にするのが妥当なのではないかと思います。二国があるのにそれを記述しないということがむしろ私は不自然に思うので、それが唯一最大の原因であるかのように受け止められることのないような慎重な表現が必要でしょう。前回、二国に限らず大きな道路によって生活圈や文化圏が分断といいますか区分されるという現実があるというご発言がありました。そういう観点で、校区を考える際にたいへん重要な要素の一つになるというぐらいで記述をされたらどうかと思います。

A案に基いたとすればどういふふうに提示をしていったらいいのかという議論と、抜本的に考え直すというご意見を出していただいております。それについての是非の意見も出していただければいいのですが、それだけに集中した議論にはしておりませんので、そういう進め方をしておりますがご容赦いただきたいと思います。

委員 市としては全域で一中学校二小学校にもっていきたいという長期的な目標がおありなのは分かるが、そのためにかなり無理をして切り替えていかなければならないのかという思いがあります。四宮小学校を継承して北巢本小学校の方を統廃合すると、校区のほぼ中心になり、国道を渡るという問題があるにしてもそれも一案ではないかという〇〇委員のご提案だと思うのですが、やはり表現は別として二国や163号線はかなり大きなバリアになりますので、かなり難しいなあという感じがします。そこにもう一つ勘案するのは、改修の費用です。前回、事務局から示されましたが、四宮をもし使うとなるとほとんど全面建て替えになると。そうすると、億の単位のお金が必要になると。それを北巢本の方だったらもう少し少ないとか、そういう事情もからんでいると思うのですね。今日は出ていませんが、多分あると思うのです。どれも一長一短あるわけで、絶対これがよくてこれがだめだという感じはしないですね。

もうひとつ、ついでで申し訳ありませんが、四宮小学校について、たまたま図書館で門真市史を見てきました。その第五巻に書いてありますが、四宮小学校は明治7年10月12日に創立したそうですが、学校名はしばらく岸和田尋常小学校であったようです。今の四宮という名前になったのは明治27年です。4月28日四宮尋常小学校と改正するとあります。最初は岸和田にあったようですが、洪水があった等さまざまな理由で移転した旨書いてありました。

委員長 単に教育の理念だけではなくて、実際には教育行政を進めるにあたっての財政的なたいへん大きな問題。これについても前回かなりご議論をみなさんでいただいて、私自身はこの審議会としての共通の理解が前は得られたと判断をしております。今日はそれを踏まえてということで、新たな視点でもご指摘いただきたいと思います。

委員 本音の部分でお聞きしますが、例えばお金があつて四宮を建て替えてもいいよという形になったら、それでもA案という形になりましたか。予算があればということですが。

事務局 私どもとしましては、やはり子どもの安全と学校の環境が将来的にわたってどうかということを中心に考えております。お金があればここもいけるとなると、四宮だけでなくお金があれば他の今まで話をさせていただいたところも同じような感じになってきてしまいます。

委員 なぜA案なのかという問題ですが、もう少しA案だということの確信を構築していただいて、そのためのコンセプトがしっかりしていないと。なぜか知らないけれどA案となっているというような、そういうことにならないようお願いしたい。

それともう一つ。100年の歴史がある小学校というようなことをおっしゃっておられましたが、新しい時代に100年前の話を持ち込んできてそれで検討するのではなくて、今から始まる新しい門真の町づくりという中の学校づくり、これを考えていただきたい。

委員長 今まで出していた議論である程度共通理解ができたと思いますが、改めてなぜA案なのかという根拠がまだ少し弱いのではないかというご意見でした。私自身はなぜA案なのかB案なのかというのは、A案よりもB案あるいはB案よりもA案、これがうんと優れているとは受け止めておりませんが、どちらかと言えばA案。つまりマイナスが少ないという観点でAかBかという判断を事務局はされたのかなという受け止めをしておりますので、際立ってどちらかが優れていてどちらかがだめだというものではないようにも思います。しかし、やはり皆さんは、A案の方がベターだなというようなことがしっかり分かっていたかのような論点の整理というのが必要かなということで、ただ今のご指摘は受け止めさせていただきます。

委員 前回の審議会で、四宮小学校のプールを建て替えすると1億2千万、東小学校と北巢本小学校のプールを改修すると1千万になりますと。今回は地図はございませんが、前回、校區別に分けた地図がありまして、決定ではありませんがA案がいいのではないかと多くの方のご意見だったと私は思っております。だから今皆さん金額について言っておられましたが、前回きちんとした金額を、これをこう建てるとこれだけの金額がいりますとか、ここを使用した場合はこれだけの金額でおさめますとか、教育委員会の方が書面で出していたと思います。その時に皆さんで検討した結果、決定はしてありませんがA案のほうがいいのではないかという方向に多数の方が向いていったのではないかと、私は思っております。

委員 私は四宮小学校に12年間在籍していましたので、四宮に対する愛惜は根深いものがあります。四宮小学校の歴史的な背景がいろいろ出ておりますけれど、四宮の紋章は、四つの宮があつて、その四つの宮をデザインしたものです。ですから、四宮の全部の地域を中心的にあわせたのが四

宮小と思っているのですが、その他合併等いろいろな経過がありますが、歴史的な面、それからもう一つはここで審議をしてきました特に学力の問題になっていますから、学力の向上ということで一つの中学校に二つの小学校という形で審議をずっと進めてきたというふうに思っています。三つ目には子どもの安全です。安全確保をどうするかという視点で考えないといけない。四つ目としてはやはり財政、費用、経費の問題ですね。これをどうするかということで検討をずっとされてきたように思うのです。でも、ここでやはりどうしても〇〇委員が言われている三つの小学校を存続させるということについては、今まで審議会の一つの中学校に二つの小学校と議論してきておりますから、ここでは、二つの小学校という苦渋の選択を迫られるのではないかと思うのです。今出ているものとしては東と北巢本ですね。あるいは、うちいずれかは四宮を残すという選択になると思うのですが、私としましては苦渋の選択ということでB案かなあという思いがするのですが、〇〇さんのようなご意見もあるのですから、これはやはり審議会として否定されるものでもないですから、とりまとめとしてはA案で、反対意見としてはこういう意見があるということ（答申に）記載をするということでしょうかと考えます。

委員長 今日はいろんなご意見を賜りましたが、ご発言をされていない委員さんもいらっしゃいますので、今日はできれば一言でもみなさんご意見を出していただいた上で最終的なとりまとめをしたいと私は思っておりますので、是非ご発言をお願いします。

委員 A案、B案というふうに絞っていますが、もう一つC案というのがあるのだという、それは現状維持ということですが、当面A案、B案、C案を均等に今現在ではあるのだという前提でお話していくのが選択のベースではないかと私は思います。

委員 何を主体に置いて考えていくのかということで、やはり将来の門真の子どもたちのためということで考えていくという話だと思います。ですから、今四宮の話もいろいろ出ています。しかし、やはり歴史も重要ですが、将来を見据えたことでどうしたらいいか。門真の学力、現状をいかに向上させていくのかということで、市の方針としては一中学校二小学校で全体的に上げていくのだと。やはり、一中学校二小学校の基本的構想は通してほしいと考えております。

委員 私も一中学校二小学校ということについては尊重したいと思っています。先ほどから伺ってまいりまして、やはり大きな道路や河川を境界とするということの基本とするというのがまずベースにあると思うのです。そうしたときに、提案にもありますように、子どもの安全を最優先するのは当然のことですが、この表現ですとややひっかかりがあります。それは、安全を最優先するという前提があるのだけれども、在籍人数であるとかあるいは通学時間を考えたときに、A案の方が適当かなと私は思います。

委員 私どもは脇田小学校で、この東小学校と四宮小学校のすぐ横に隣接していて、自宅は八尾枚方線沿いにあります。A案でも、もちろん四宮小学校に通っておられるお子様の今までの倍の距離を東小学校に通うこととなりますし、よその学校の通学路を通して危ない八尾枚方線沿いを通してということで、近所に住んでいますのでもちろん通学路のイメージも沸きますし、一回大人が歩かれたかどうか分かりませんが、かなり危ないところを通して通学することになると思います。

それと、みなさんいろんな意見をおっしゃっていただいています、確かにA案もB案もいろいろなところがあり、また考えなければならないこともたくさんあると思うのですが、現実、一中学校二小学校するにはかなりの時間とかなりの説得が必要ではないかと思っております。

委員 前回の資料で日新地区から東小学校までの徒歩時間が30分程度と出ていました。1年生位の子どもの足では30分では無理だと思います。事務局の方で通学路が何件か出ていましたよね。あれをもう一度提示をして欲しいと思います。

委員 苦渋の選択をしてどちらかの意見を言わないといけないとなると、まあA案かなという程度の話しかできないですね。先ほどどなたかおっしゃったと思いますけども、反対意見も踏まえて議事録に残して今後の成り行きを見守るしかないかなという思いです。

委員 現状のまま三校が本当はいいのかもしれないですが、他の中学校校区は一中学校二小学校体制という中で、ここだけ一中学校二小学校にならないのはどうしてかなということも出てしまうのかなあとも思います。

委員 基本的には地理的な問題、それと幹線道路が通学路となることなどがあるが、一中学校二小学校をここだけはずすということでは今までの論理が崩れますので、審議会としてのベースは最後まで通したいなと思いますので、やむなしかなと考えます。

委員 四宮小学校では「強く・正しく・朗らかに」という心構えをもったうえで、今の問題は何か、学校の教育方針は何かと一生懸命やっています。ある意味では、北巢本も東も四宮にとってはライバルというか競争相手なのです。先生方がそういう気持ちでやっているときに、今度一中学校二小学校で再編するということになれば、それなりに強力な説得力ある教育方針、あるいは教育計画を打ち出してもらわないと、議論がかみ合わないし考えることもできなくなります。今我々が論議していることが一瞬にして変わるのかということになりますので、今回のこの計画については、小中一貫と一中学校二小学校の理念をきっちりとしていただきたいという思いです。

委員長 基本的な根幹となるご意見でした。

時間の制約もございますので、ここで私の方でとりまとめさせていただいて、みなさんにおはかりしたいと思います。こもごもご意見をちょうだいいたしました。すべてを盛り込むことは到底できませんけれども、一定まとめさせていただいた中で、これを踏まえて事務局の方でご検討していただきたいと思います。

三点にまとめさせていただきますと、一点目は、本日のとりまとめは、基本的には前回のさいごにまとめさせていただいた方向と相違なく、その上に立ってということでございます。結論は事務局案のA案の方向で、第五中学校校区内の小学校の再編成をするという方向でございます。内容的にはこもごも皆さんに本日もご発言いただきましたとおり、基本的な教育の考え方ということについては、これからの新しい門真の町づくりの一環としての教育の充実、教育環境の整備、その基本の考え方は、小学校と中学校が協力して9年間で子どもを育てていきましょう、そのために学校が保護者や地域の皆さんと一体となった学校づくり、町づくり、そういう理念を方向づ

けていただきましたので、これは基本であると。そういう枠組みの中で第五中学校の校区のあり方を考えると、二つの小学校ということで、事務局の提案通りのA案ということで考えるというのが一点目です。

二点目は、そうすると二つの小学校になるわけですが、現在の三つの小学校のどれとどれを残すかということではなくて、事務局からご提案がありました通り、新しく二つの小学校をつくるという考え方を基本とし、その際、現行の三つの小学校が二つの小学校に結実をしていくということをしっかりおさえる必要があると。もっと具体的に申し上げますと、北巢本小学校の校地と校舎を使った新しい小学校は、北巢本小学校の延長で発展充実ということではなくて、北巢本小学校と四宮小学校の一緒になった新しい小学校の理念として、両校の伝統を受け継いだ上に新たにつくるという考え方が必要なのではないかと。同様に、東小学校の校地と校舎を活用してつくる新しい小学校についても、四宮小学校と東小学校の教育を、理念や方法も含めてしっかりと受け継いで新たな小学校の理念、方向性、目標ということで設定するという考え方が必要なのではないかと。そう考えると、四宮小学校の理念や歴史や伝統は新たな二つの小学校の中に確かに、そして第五中学校校区全体に受け継がれていくことになるのではないかと、そういう考え方で整理をしていただきたい。そうすると、事務局から説明された考え方の核心の部分ですが、三つの小学校の歴史と伝統を、創設する二つの小学校で発展充実させるというような体裁になっていますので、そこをもう一度、分かりやすいように、明確に記載してもらいたい。皆さんのご意見を頂戴したところ、そこをもう少し分かりやすくきっちり書いていただきたいというのがご意見だと思います。私もそう思いますので、誤解のないような書きぶりにしていただきたいというのが二点目でございます。

それから三点目は、何人もの委員の皆さんに直接言っていただきましたし、皆さんもそういうお気持ちだと思いますが、なくなる学校の当事者の思いをどうする、という問題でございます。これはやはり一言では言えない、心のふるさとが消えてしまうような虚しさとか残念さとか、いろんな気持ちがまぜこぜになっているのだと思います。それは当然の感情ですから、委員の中では〇〇委員を中心にそのことをあえて意見として出していただいていると思います。これを答申の中に、意見があったという事実も当然ですが、そういう気持ちが、私は新しい学校をつくる際の原動力になっていくものだと思います。地域ぐるみで学校に対して熱い思いをもっていつこそ、学校が地域に根ざしたものとして充実発展していくのだと思います。学校の教師だけではとてもできるものではないのです。そういうものが、もういいやと言ってあきらめてしまわれるような答申であっては意味がないのであって、このご意見は単に反対意見だったという事実だけではなく、そういう思いも含めて次の学校づくりに活かしていく観点からも、しっかりとご意見があったことは記述をしていくべきではないかというのが三つ目のとりまとめです。

以上のまとめをさせていただきました。できるだけ皆さんのご意向を汲み取らせていただいたつもりでございますけど、是非意見を言いたいという方があればもちろんお受けいたしますが、この方向でご了解をお願いしたいと思っております。いかがでしょうか。

委員 委員長が今おっしゃいましたことを事務局で審議していただきまして、再度委員会の席上で確認できるようにしていただけたらと思います。

委員長 この方向でよければ、そういう形で再度、考え方を練り直していただきたいというご意見だっ

たとおもいますが、事務局いかがですか。

事務局　今おっしゃられました観点で、継承、発展させるという問題、非常に大きいものがあると思いますので、ご指摘いただいたご意見を尊重させていただきまして、再度ご提案をさせていただきたいとこのように思っておりますので、よろしくお願いします。

委員長　皆さんそれで、よろしゅうございますか。

委員　(異議なし)

委員長　ありがとうございます。それでは、私の方でとりまとめをさせていただいた方向でご了解をいただいたものとさせていただきます。よろしゅうございますか。

委員　(異議なし)

委員長　ありがとうございました。では次回は、事務局の方で考え方を整えていただきまして、これについて了解するかどうかということで、最終的な判断をお願いいたします。

あと、この案件で残っておりますのは、これもたいへん貴重な、また当然のご意見を〇〇委員の方から頂戴しておりました。北小学校についても同様ではないのかと、前回ご意見をちょうだいして、事務局の方で整理をしていただきました。これも内容的には今日議論いただいたものと全く同様でございます。私はそのように思っておりますが…。これについて説明をしていただきたいと。内容的には了解していることですが。

事務局　それでは、新中学校(第一・第六統合)校区内の小学校再編についての考え方ということでご説明をいたします。

こちらは、以前ご意見いただきましたように、なぜこうなったのかという理由の部分を使いやすく簡潔に整理させていただいたものでございます。ですので、少し中身が物足りないのではないかという感覚をもたれるのもごもっともかと思えます。しかしながら、北小学校に限らずどの学校につきましても、小学校再編の対象となりましたら歴史の短い長いにかかわらず一定の配慮は当然必要となるものという前提のもと、あえて歴史や伝統といった部分につきましては説明を割愛させていただいております。事実をまとめさせていただいたものでございます。順に説明をさせていただきます。

新中学校校区内の小学校配置につきまして、まず一点目ですが、1中2小、一中学校校区内に二小学校という考え方に基きまして、新中学校校区内の小学校は二校とすることを大前提とさせていただいております。

その次、古川橋小学校につきましては、現在の校区がたいへん東西に長くなっております。しかも古川橋小学校の位置は、校区の西の端ということで、東の端の方におられる児童の皆様の通学なども考えて、古川橋小学校は再編の対象とせず現状のままとするというものです。

続いて三点目でございますが、北小学校の平成20年度の児童・学級数につきましては、358人12クラスの小規模校に近い状況になっております。そして、今後も減少の一途となる見込

みです。

四点目として、北小学校の校舎につきましては、古くなっておりまして、現在耐震補強の必要が認められております。しかしながら、接続する道路が狭隘になっており、工事車両の進入が困難であり、現状では大規模な工事の実施が困難となっております。このため、今後も引き続いての校地・校舎の使用につきましては困難が生じるものとみております。

五点目として、浜町中央小学校の校舎につきましては、平成19年度の学校統合に伴いまして、学校統合の前でございますが大規模改修及び耐震補強を終えており、今後の使用には問題がないということになっております。

以上挙げました事実から、新中学校校区内の小学校は、古川橋小学校と浜町中央小学校とするという結論に至っております。

続きまして、その際の北小学校の児童と校区についてのご説明をいたします。

まず一点目が、北小学校を隣接いたします浜町中央小学校に単純に統合して全児童を受け入れる場合には、現在の浜町中央小学校の校舎について増築が必要となります。しなしながら、その際には、運動場の面積を圧迫してしまう等、校舎の配置上の課題等が残ることとなります。

二点目として、北小学校校区内の中央環状線西側の小路町及び堂山町は、中央環状線で校区が分断されております。よって、大きな道路を渡って通学しているという現況がございます。また、浜町中央小学校に単純に統合した場合は、かなり複雑な通学路を通して距離が長くなるということで、安全性に課題が残ることになります。

三点目として、小路町・堂山町の児童は門真小学校に通学するものとした場合、門真小学校、浜町中央小学校ともに、現在の教室、特別教室の転用も含めまして、教室数で適性規模の範囲内での児童の受け入れが可能となります。

最後になりますが、小路町・堂山町につきましては、元々門真小学校校区内にあった地区です。よって地元の住民の皆さんの抵抗感は少なく、比較的受け入れていただけると考えております。

以上のことを総合的に考えまして、北小学校は門真小学校と浜町中央小学校に分離統合する。北小学校校区のうち、小路町・堂山町につきましては門真小学校及び第三中学校の校区、その他の町につきましては、中央環状線から東側の地区でございますが、浜町中央小学校及び統合した新中学校の校区とするという結論に至っております。

委員長

時間の関係上、私の方から指摘ということでさせていただきます。あえてあれば、またご意見をちょうだいしたいと思います。今の内容は、事務局が冒頭言われました通り、なぜこういう配置をするのか、ということについての技術的なあるいは条件的な説明であり、皆さんすでにご承知のことではありますが、北小学校が存続しなくなるというのは、今日議論いただいたことと全く同じでありますから、教育の内容といえますか教育論として、この小学校の教育をつないでいくのか、どう受け継いでいくのかということは全く同様でありますので、今日資料としてまとめていただいたものと同様に、内容上のとりまとめも是非やっていただきたいということをお願いします。北小学校は教育の問題はもういいのかというような、この中の議論はそうではなかったと思いますけれども、外的にはそのように受け止められかねないということになりますので、同様の取り扱いをお願いします。改めて資料としてのご提示をお願いします。

委員

小路町・堂山町は元々門真小学校校区であったため、地元住民の抵抗感は少ないものと思われ

るところですが、問題が出ないことはないので、削除していただきたい。

委員 四宮の扱いと同等に財政的な裏づけも含めてきちんと整理していただきたいと思います。今回、上野口の話と大和田の話が出ていますが、四宮の前提のもとに資料をそろえられているので、まあ納得できる資料になっていますが、北小の場合さらっと終わっているの、資料が貧困になっています。全く同等に扱ってあげてください。

委員長 ありがとうございます。以上で第二号議案については終了とさせていただきますが、よろしゅうございますか。

委員 (異議なし)

委員長 ありがとうございます。

議題「第二中学校校区の小学校再編について」

資料34 第二中学校校区の小学校再編について

資料35 校舎等施設の状況

委員長 それでは次に、第三号議案「第二中学校校区の小学校再編について」というところに行かさせていただきます。

資料が34と35の資料がございます。この資料の説明を事務局からお願いいたします。

事務局 それでは、第二中学校校区内の小学校再編について、ご説明させていただきます。

3つの小学校を1中学校区に抱えている中学校の小学校再編のうち、最後の校区である第二中学校校区についてご審議いただきたいと思います。これまでの審議でもお示しましたが、校区の再編にあたっての考え方としましては、本市が推進する小中一貫教育の理念と「一中学校区二小学校」の基本的な考え方を踏まえ考えたいと思います。

第二中学校校区内の小学校の現状、校地の位置についてです。20ページにある地図を見ながらお聞きください。沖小学校の校区は国道163号線の南側に位置し、校地は校区のほぼ中央に位置します。大和田小学校の校区は、国道163号線の北側に位置し、校地は校区の南西の角に位置します。上野口小学校の校区は、大和田小学校同様国道163号線の北側に位置し、校地は上野口町、野里町の中心に近いところに位置します。

続きまして、児童数の推計についてです。細かい数字は申しませんが、沖小学校の推計につきましては、21年度が17クラスとなりまして、若干少なくなっていく傾向にあります。大和田小学校と上野口小学校につきましては、大きく減るということではないですが、12クラス規模推移していきます。

教室の現状です。まず沖小学校です。22ページに沖小学校の教室の見取り図がありますのでご覧ください。教室数については、現在普通教室として使用しているのが17教室、特別支援教

室として使用しているのが2教室です。今後普通教室として転用可能な教室は、2階のランチルーム、3階の少人数教室・机いす教室・備蓄倉庫、4階のミシン室・図工準備室（児童会室）の合計6教室で、普通学級は総数で23教室が利用可能であると考えられます。特別支援学級が2学級として考えております。

続きまして大和田小学校についてです。21ページをご覧ください。教室数については、現在普通教室として使用しているのが15教室、特別支援教室（第2トマト）として利用しているのが1教室です。今後普通教室として転用可能な教室は、2階のPTA会議室・フリースペース・少人数教室、3階の更衣室・少人数教室・児童会室の合計6教室で、普通学級は総数で21教室が利用可能であると考えられます。

続いて上野口小学校です。23ページをご覧ください。教室数については、現在普通教室として使用しているのが12教室、特別支援教室（プレイルーム）として利用しているのが2教室です。今後普通教室として転用可能な教室は、2階の北の学習室・南の学習室・算数教室・会議室、3階の学習室・備蓄倉庫・児童会室・机いす室、4階の図工室横準備室・計測室・卓球室・準備室（レクチャー室）・第2音楽室の合計13教室で、普通学級は総数で25教室が利用可能であると考えられます。

耐震性につきまして、24ページ資料35に基いて説明いたします。

まず1番目。建築基準法に基づく校舎及び体育館の耐震性です。前回お示しした資料と同様の論法となっておりますが、阪神・淡路大震災級の地震を想定した場合の校舎・体育館の耐震性につきまして、建築確認を得た年によりまして、次の①②③に3つに分類されるものです。

①昭和56年6月以降に建築確認を得た建築物につきましては、おおむね被害が出ないとされておりますが、こちらの方につきましては該当する校舎・体育館はございません。

②昭和46年6月以降、昭和56年5月以前に建築確認を得た建築物につきましては、何らかの形で被害が出るのが予想されるため耐震診断を行った上で、その結果により耐震壁による補強が必要と考えられます。該当いたしますのは、大和田小学校の校舎1棟、沖小学校の校舎2棟ならびに体育館1棟でございますが、この体育館につきましてはすでに耐震化を終えております。上野口小学校の校舎3棟体育館1棟。以上が②に該当する校舎・体育館となっております。

③です。昭和46年5月以前に建築確認を得た建築物でございますが、②の建築物を越える被害が出るのが想定されるため、耐震診断を行い、その結果により補強が必要となります。これは、場合によっては費用対効果により建て替えの検討も必要となります。耐震壁の量がかなり多くなると考えられます。該当いたしますのが、大和田小学校の校舎棟が4棟体育館1棟、沖小学校の校舎棟が2棟、上野口小学校の校舎棟が1棟となっております。

学校ごとの説明でございます。大和田小学校につきましては、校舎棟5棟のうち4棟と体育館が③に該当することから、引き続き使用する場合は、全棟を耐震診断のうえ、大規模な耐震補強又は建て替えの必要性が生じると考えられています。

続いて沖小学校についてですが、校舎棟2棟が②、校舎棟2棟が③に該当することから、耐震診断の必要があり、一定の耐震補強は必要になるものと予想されます。先ほども申し上げましたが、体育館につきましては平成元年に耐震化工事を済ませており、耐震性に問題はございません。

上野口小学校につきましては、校舎棟3棟と体育館が②、校舎棟1棟が③に該当することから、耐震診断の必要がございます。その上で、一定の耐震補強は必要になるものと予想されています。

続いて、プール施設の状況です。大和田小学校と沖小学校が同じ状況でございますが、老朽化

によりまして漏水が実際起きております。よって現在ではゴムシートによりまして漏水の対応をしておりますが、いずれ建て替えが必要になってくるものとみております。

上野口小学校につきましては、経年劣化ならびに、現在浄化装置が設置されていないという状況がございますので、こちらについてもいずれ建て替えが必要になるとみております。

3番の今後の改修コストの比較についてでございます。3校の改修コストですが、まず耐震化につきましては全学校において早急の課題、絶対必要なものであるということで、実施を前提としております。

1) 校舎についてです。耐震診断をしなければ工事の概算価格が出せないものの、大和田小学校の方が老朽化、壁面面積によりコストがかかるものと予想されています。また、大和田小学校は耐震診断結果によっては建て替えが必要となる場合がございます。コストにつきましては、全小学校とも耐震補強を行った場合は、7.5千万円～1億円程度と見込んでおります。

続いて2)の体育館についてでございます。先ほど、沖小学校につきましては耐震化が済んでおりますので、大和田小学校ならびに上野口小学校で耐震補強を行う場合、それぞれ2千万円程度のコストがかかるものとみております。

プールにつきましては、先ほどご説明いたしました通り、全校にて建て替えということが考えられますので、1校あたりにつき1億2千万円のコストがかかるものとみております。

続いて26ページをご覧ください。先ほど申し上げましたデータを表にまとめております。前回の五中校区のときと同じような概要となっておりますが、ご指摘をいただきました通り、今回は階数と床面積を加えております。

結論だけ申し上げますと、耐震改修・補強を行ったときのコストにつきましては、大和田小学校で2億1千万～2億4千万、沖小学校で1億9千万～2億2千万、上野口小学校で2億1千万～2億4千万と、大差はございません。それから、下の段に参考につけさせていただいております敷地面積につきましては、沖小学校だけが突出して広がっております。運動場面積につきましても、沖小学校が同様となっております。それから、一番下に開校年月日を入れてさせていただいております。

それから、27、28、29の3ページにつきましてはこれまでと同様、三小学校の校地の図面を貼付させていただいております。審議の参考にさせていただければ結構かと存じます。以上です。

続きまして、第二中学校校区内にある3小学校の再編の方策についてです。これまでの論議の中で、校区の境としては、河川や交通量の多い大きな道路で分けると考えることが望ましいとされてきました。この考え方から第二中学校校区を見た場合、国道163号線を校区の境と考えるのが妥当ではないかと思われまます。国道163号線の南側の地域には沖小学校の1校、北側の地域には大和田小学校、上野口小学校の2校があります。

南側地域の沖小学校については、先ほどの推計を見ましたら、平成23年以後学級数の減少が見られます。しかしながら、沖小学校の校区の南の地域（打越・北島）は、現在田畑が多く、また第二京阪国道が通る地域でもあり、今後の開発状況では児童数の増加の可能性もある地域です。したがって、南側の地域については沖小学校地を利用することとします。

①北側の地域の2つの学校を1つにした場合の児童数の合計数の推計は以下の通りです。平成24年度までは23学級ですが、平成25年度以降学級減に転じ20学級を維持しますので、それ以上の教室数の確保は必要かと考えます。先ほども述べましたが、教室数の最大利用可能数は、

大和田小学校が21教室、上野口小学校が25教室で、大和田小学校については少し余裕がないかと考えます。

通学路の状況についてです。仮に大和田小学校校区の児童が上野口小学校に通学した場合、大池町の児童については、距離的には現在と変わることはないと考えられます。常盤町と大橋町の児童については若干現在よりも遠くなるようですが、大和田小付近の大橋町から上野口小学校までの距離は約1kmですので、児童の負担は少ないと考えられます。また、南北に通る大和田茨田線を横切るための信号も、京阪の高架と国道163号線との間に3ヶ所（点滅信号1ヶ所を含む）あり、現在も大池町の児童が大和田小学校へ通学していることから、安全面も問題はないと考えられます。

仮に上野口小学校校区の児童が大和田小学校へ通学した場合、野里町の児童については、大和田駅付近の児童は若干遠くなります。上野口町の天辻鋼球横の住宅からは2km近くなり、少し遠くなる可能性があります。

再編案についてです。北側の地域については、現在の大和田小学校地と上野口小学校地を比較した場合、立地条件、教室数、校舎改築の条件、通学上の問題（安全面・距離）などを考慮すると、上野口小学校校地を利用の方が望ましいと考えます。

委員長 お諮りをします。現在3時30分でございまして、終了の予定時刻となっております。この取り扱いについてですが、この後、若干どうしてもというご質問をお受けして、そこでいったん切りさせていただいて、次回は冒頭から先ほどの事務局から出していただいたものについての議題を議論した後で、この案件につきましては、次回は冒頭から審議ということで入らせていただくという取り扱いは、事務局はどうですか。今後のスケジュールをにらみ合わせてそういう取り扱いは可能ですか。

事務局 可能です。

委員長 事務局の方から、今後のスケジュールをみてそれでも無理はないという判断をいただいておりますが、そのような取り扱いをさせていただいてよろしいですか。

委員 (異議なし)

委員長 それでは、先ほど申し上げました通り、ご質問がある方はお願いをします。

委員 通学路の件で少しお聞きしたいのですが、大和田小学校校区から上野口小学校に通う場合の通学路は実際に歩かれていますか。

事務局 実際には、この間の五中のときのように歩いておりますが、そこに書いてありますように1.3km程度と考えておりますので、実際児童の足で可能かなと。他の小学校の距離につきましても、前々回他校の長い距離はどうかというご質問に対してご提示させていただきましたので、ほぼ通学可能な距離かなと思っております。

委員 道が意外とこの辺は細いかなというイメージがあるのですが、現在大和田小学校の大橋町は一番遠くなると思いますが、安全面は確保できるのですね。

委員長 現在、大和田小学校でも通学路を決めておられますし、また上野口小学校でも通学路を決めておられます。その通学路を合わせまして、ちょうど通学可能のところが出てくるというふうになっておりますので、その通学路どうしをつないだ形で通学していただくことで、安全を確保できるものと考えております。

委員 163号線から北側は、1つの学校で855名になるということで、かなり大きな学校になるということですが、今回は北小学校のように、一部は校区外へということは全然考えていないのですか。

事務局 今回は第二中学校校区内という考え方で進めさせていただきました。ただ、現在大和田小学校校区の子どもたちで、七中に通っている子どもたちがございます。その子どもたちは大和田小学校におりますので、その子どもたちは二中へという方向のもとで考えさせていただいております。

委員長 あと、いかがでしょうか。

それでは、次回は審議ということですが、持ち帰っていろいろ考えていただいて、質問も当然結構ですので、質問を含めた審議に入るといってお受けとめをいただきたいと思います。この案件につきましては、本日はここでいったん切らせていただきます。

以上で、本日の議事についてはすべて終了をいたしました。それでは事務局にお渡しします。

次回の日程

事務局 次回以降の日程でございますが、次回の開催日につきましては10月の末頃を予定しております。正式に決定次第、後日委員の皆様にご連絡させていただきます。それ以降の審議会の予定でございますが、11月中旬頃、そして12月上旬頃、答申案につきましてご審議ご決定をいただきまして、年内に教育委員会に対して答申をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(以上で第9回審議会終了)